

第4学年 道徳科学習指導案

1組 計35人 (男子18人, 女子17人)

指導者 中野嘉宣

1 主 題 名 本当の親切とは (B 親切, 思いやり)
教材名「心と心のあく手」(日本文教出版4年)

2 本主題で目指す子供の姿

主体性	親切とはどうすることかについて自分の経験を振り返り, 自分のめあてをもって学習に臨むことを通して, これからの課題や目標を見付け, 実生活に生かそうとする。
協働性	困っている人に対して親切にする意義やその大切さについて, 友達や先生との「学び合い」を通して, 道徳的価値観を広げたり, 深めたりしようとする。
創造性	親切に対する道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり, 自分自身の体験を想起したりし, 困っている人に親切にすると, 自分のこととして考え, 実践しようとする。

3 ねらいとする道徳的価値について

(1) 内容項目とその系統

【第1学年及び第2学年】 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。
【第3学年及び第4学年】 相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。
【第5学年及び第6学年】 誰に対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にすること。
【中学校】(B 思いやり, 感謝) 思いやりの心をもって人と接するとともに, 家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し, 進んでそれに応え, 人間愛の精神を深めること。

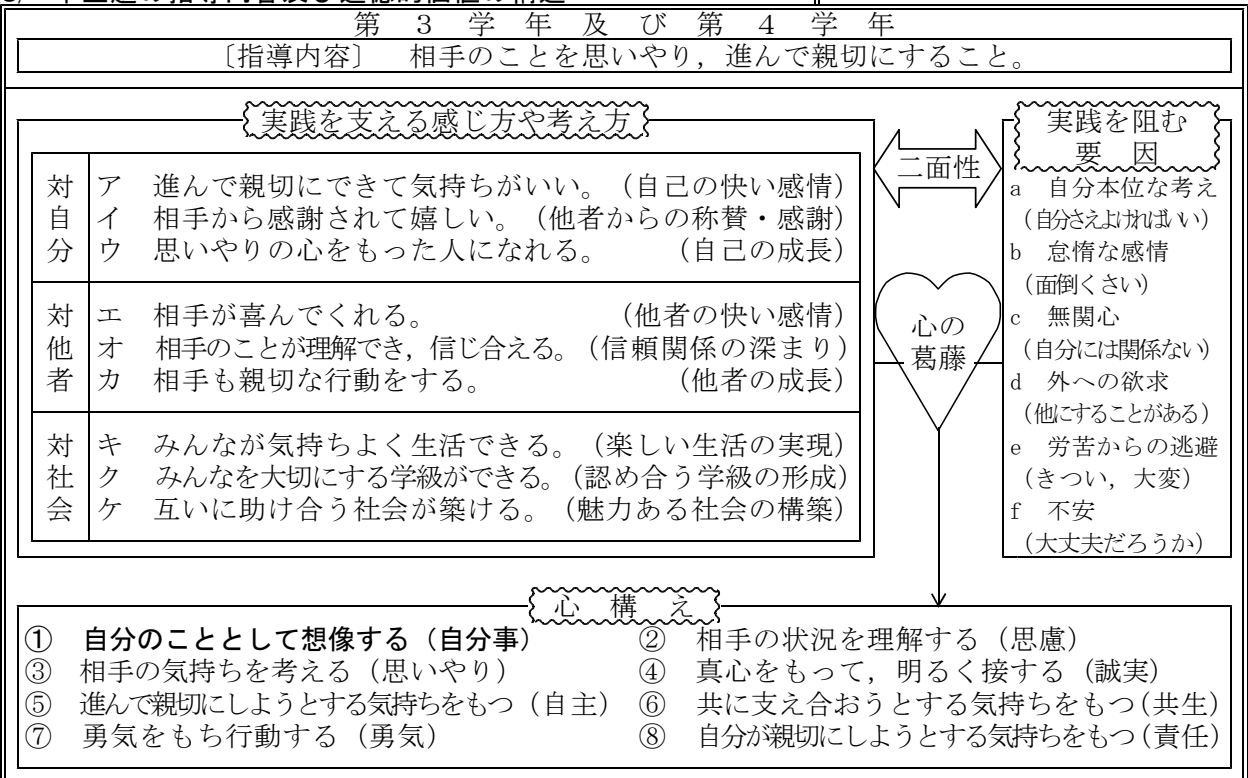
(2) 指導内容についての基本的な立場

「親切」とは, 相手の身になって, その人のために何かをすることである。「思いやり」とは, 相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り, 自分の思いを相手に向けることである。ここでは, 相手に対する思いやりの心をもつことで, 自他共に快い気持ちになることを理解し, 進んで親切にしようとするための大切な考え方を身に付けていくことになる。

この期の子供たちは, 学校や日常生活において様々な人と触れ合う中で, 相手の気持ちを考えたり, 温かい心で優しく接したりしていこうとするようになる。しかし, 相手のことを考えて進んで親切な行いをするものの大切さは理解しつつも, 自分本位な考えや怠惰な感情などの心の弱さから, 相手の状況や気持ちを自分のこととして考えて行動することができないときもある。

そこで, 本主題では, 相手の状況や気持ち等を想像し, 温かく見守ることの意義やその大切さについて理解することを通して, 相手のことを親身になって考える道徳的な判断力と, 進んで親切にしようとする道徳的な態度を育てることをねらいとする。さらに, 親切な行為について自分との関わりで捉え直すことで, みんなが明るく楽しく過ごせることを実感し, これからの生活の中で本時で学習したことを生かしていこうとする道徳的な実践意欲を高めていく。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



4) 全体計画（別業）における本主題の位置付け

<p>【全体計画（別業）】</p> <p>国語科「だれもが関わり合えるように」（9月）：「誰もがよりよく関わり合う」ということについて、本やインターネットなどで調べ、学級でスピーチ発表をする。</p> <p>体育科「鉄棒運動」（10月）：友達と励まし合い、温かい心をもって練習に取り組んだり、器械・用具の準備、片付けをしたりする。</p> <p>学校行事「県学校ダンス発表会」（12月）：互いに思いやりの心をもちながら、練習に取り組む。</p>
<p>【本時】〔補充・深化・統合〕</p> <p>11月 「本当の親切とは」（B 親切, 思いやり）</p> <p>『心と心のあく手』 ※ 自分のこととして想像する（自分事）</p>
<p>【家庭や地域社会との連携】</p> <p>学級通信（「親切, 思いやり」に関する新聞記事の紹介及び親子による感想記入の協力）</p>

4 子供の実態について（調査日 平成30年7月19日 調査人数 35人 複数回答あり）

(1) 本主題に関する経験場面①

親切にできた経験	人数
・ 困っていたり、悩んでいたりを助けたとき	20
・ 怪我をした人を助けたとき	5
・ 忘れ物をした友達に貸したり、見せたりしたとき	4
・ 落とし物を拾ったとき	3
・ 片付けたり、リコーダーを配ったりしたとき	3
・ 一人でいる友達を誘えたとき	2

(2) 本主題に関する経験時の気持ち

親切にできたときの気持ち	人数
・ すっきりした気持ち	18
・ 心が温かくなった、気持ちがよかった	9
・ 親切にしてよかった	4
・ 友達や先生に褒められて嬉しかった	3
・ 自分にもよいことがある	2
・ これからも進んで親切にしよう	2

(3) 本主題に関する経験場面②

親切にできなかった経験	人数
・ 困っている人を助けることができなかったとき	17
・ 機嫌が悪いとき、いらいらしていたとき	8
・ 学校（手伝い、運動会練習など）	6
・ 遊び（誘えなかった、一緒に遊べなかった）	4
・ 他の人が先に親切にしたとき	2
・ 体調が悪いとき	1

(4) 本主題に関する経験の理由

親切にできなかった理由	人数
・ 面倒くさかったから、疲れていたから	11
・ 急いでいたから、友達がしてくれると思ったから	11
・ 他のこと（遊び、会話等）に集中していたから	5
・ 苦手な人だったから（好き嫌い）	5
・ 自分のことしか考えていなかったから	4
・ 勇気や自信がもてなかったから	2

(5) ねらいとする道徳的価値の意義

親切にするとどんなよいことがあるか	人数
対 自 分 ・ 気持ちがいい、嬉しい、すっきりする	25
・ 自分が困っているとき助けてもらえる	7
・ また人に優しくしたい	4
対 他 者 ・ 嬉しい、心が気持ちよくなる	17
・ 自分も他の人にしてあげようと思う	11
・ ありがとう（感謝）、仲よくなれる	9
対 社 会 ・ 明るく楽しい社会になる	18
・ 仲よし、協力、安心、思いやりが増える	13
・ 平和、学級や町が更によくなる	8

(6) ねらいとする道徳的価値に対する心構え

親切にするためにどんな考えを大切にするか	人数
・ 優しい気持ち、思いやりの心をもつ	12
・ 相手の気持ちを考える、相手の立場になる	8
・ 進んで行動しようという気持ち、勇気をもつ	6
・ 好き嫌いをなく、誰に対しても公平にする	4
・ 自分のこととして考える	3
・ 自分も友達も大切にする	2
・ いじめのない、けんかなし	2
・ 周りをよく見る、みんなの心を一つにする	2
・ 相手にも心がある	2

(1)(2)から、学校生活や身近な生活場面の中で、困っている人に対して親切な行為を行ったことが多く、そのときの気持ちとして、自分自身に対して快い感情を抱き、喜びを感じていることが分かる。(3)(4)から、「面倒くさい」、「急いでいる」、「友達がしてくれる」といった際に親切な行為ができなかったことが分かる。これは、怠惰な感情や自己中心的な考えなどの心の弱さによるものと思われるので、相手に対する思いやりの心を十分に育てる必要があると考える。(5)(6)から、親切な行為を行う意義として、「気持ちがいい」、「すっきりする」などの感情が多く、その感情が「明るく楽しい社会になる」等に結び付いていることが分かった。さらに、親切な行為を行う心構えとして、「思いやりの心をもつ」、「相手の気持ちを考える」ことも大切にしていることが分かった。

また、普段の子供たちの様子から、国語科や体育科等の授業の際に、課題について互いに協力して本やインターネットで調べたり、苦手な友達に自分の考えやコツを教えたりしている。また、休み時間や昼休みの際に、思いやりの心をもって友達を誘い合い、楽しく遊んでいる。しかし、相手の置かれている状況や気持ちに寄り添うことなく、友達に心ない言動をしてしまうときがある。

そこで、本時では、困っている相手の状況や気持ちなどを自分のこととして捉えることの大切さに気付くことができるようにする。その際、親切にすると「お互いに気持ちがいい」、「助け合える社会になる」などの意義と、「相手の気持ちを考える」、「自分のこととして考える」などの心構えを関連付けて考えさせることで、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりしながら、相手のことを親身になって考える道徳的な判断力と、相手のために進んで親切にしようとする道徳的な実践意欲や態度を育てることができるようにする。

5 教材について

(1) 教材のあらすじ

下校中、はやとは大きな荷物を持って苦しそうにしているおばあさんに出会う。はやとは、おばあさんに「荷物持ちます。」と声を掛けるが断られてしまう。そのことを母に話すと、母は、おばあさんは病気で体が不自由になっていたけど歩く練習をして、やっとあそこまで回復してきたらしいと教えてくれた。数日後、またあのおばあさんに会ったとき、はやとは声を掛けるかどうか迷ったまま、そっとおばあさんの後に付いて行くことにした。家に自分だけで着いたおばあさんの笑顔を見て、ぼくはおばあさんと「心と心のあく手」をしたような気がした。

(2) 教材の分析・反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子供の反応
1 知らないおばあさんに声を掛けるか迷うはやと 【迷い】	d 外への欲求（他にすることがある） f 不安（大丈夫だろうか） ② 思慮 ③ 思いやり ⑤ 自主 ⑦ 勇気 ⑧ 責任	<ul style="list-style-type: none"> お母さんとの約束があるな。 おばあさんに断られるかもしれない。 大変そうだから手伝いたい。 進んで荷物をもってあげたい。
2 おばあさんに声を掛けたが断られるはやと 【心の弱さ】	a 自分本位な考え（自分さえよければ） b 怠惰な感情（面倒くさい） c 無関心（自分には関係ない）	<ul style="list-style-type: none"> 声を掛けなければよかったな。 せっかく声を掛けてあげたのに。 今度から声を掛けないようにしよう。
3 数日後、再びおばあさんに出会ったときのはやと 【葛藤】	c 無関心（自分には関係ない） f 不安（大丈夫だろうか） ① 自分事 ③ 思いやり ④ 誠実 ⑥ 共生	<ul style="list-style-type: none"> 断られたから自分には関係ない。 また断られるかもしれない。 この前より大変そうだな。 声を掛けて助けてあげたい。
4 坂を上り切ったおばあさんの笑顔を見たはやと 【意義，感動】	ア 自己の快い感情（対自分） エ 他者の快い感情（対他者） キ 魅力ある社会の構築（対社会） ① 自分事 ② 思慮 ③ 思いやり ⑤ 自主 ⑥ 勇気	<ul style="list-style-type: none"> 見守ることができてよかった。 おばあさんは、歩いて嬉しそう。 互いに支え合う素敵な町になる。 おばあさんの自分でやり切りたいという気持ちを大切にしたいから。

(3) 教材の活用

本教材は、おばあさんに一度断られたはやとが、何かできることはないか考え、そっとおばあさんの後ろを付いて歩いたはやとの心の変化を考えることで、「親切とは何か」について考えを深めることのできる話である。親切とは、「優しく接する」、「思いやりの心をもつ」と捉えている本学級の子供たちが、はやとの温かく見守る行為について多面的・多角的に考えることで、「親切、思いやり」に関する道徳的価値観を捉え直すことができる教材であると言える。

今回、最初に声を掛けたはやとの行為と、心の中で応援しながらそっとおばあさんを見守ったはやとの行為を比較し、相手の状況や気持ち、それに伴う親切の広さや深さの違いを考えさせることで、親切の意義やその大切さに気付くことができるようにこの教材を活用する。

6 指導に当たって

(1) 主体的な学びを実現する教師の手立て

「気付く」過程で、「親切とは、どのような行動だと思うか。」と発問することで、「親切、思いやり」に関わる見方や考え方を振り返ることができるようにする。その後、泣いている友達に声を掛ける場面を電子黒板に提示し、「自分にも似たような体験はなかったか。」尋ね、自分自身を見つめさせる。その際、「これまでに自分が親切だと思っていた行動は、本当に親切だったのか。」と発問することで、親切に対する問題意識を喚起し、自分のめあてをノートに書かせる。

「深める」過程で、導入時に記入した自分のめあてを振り返らせ、困っている人に親切にするとき、「本時の学習を通して新たに気付いた大切な考えは何か。」と発問し、その根拠や理由を尋ねる。

(2) 対話的な学びを実現する教師の手立て

「見つめる」過程で、「最初におばあさんに声を掛けたはやと」と「おばあさんの後ろを付いて歩いたはやと」の親切な行為について比較させることで、親切の広さや深さの違いに着目しながら、友達や先生と自分の見方や考え方を伝え合う。その際、名前カードを黒板に貼らせることで、自分の立場を明確にし、理由や根拠に基づいた「学び合い」ができるようにする。

(3) 深い学びを実現する教師の手立て

「深める」過程で、導入時の泣いている友達に声を掛ける場面を再度提示することで、本時で新たに気付いた「親切、思いやり」に関わる見方や考え方を日常生活と結び付けて考えたり、授業前と授業後の道徳的価値観の変容を実感したりできるようにする。その際、「なぜ、そのような行動をとるのか。」と尋ねることで、相手の状況や気持ちを自分のこととして考える意義やその大切さを価値付けるようにする。

「高める」過程で、「学習した考えを生活のどんなときに生かしていきたいか。」と発問し、本時の学びを具体的な生活場面と結び付けて捉えることができるようにする。

7 本 時

(1) ねらい

思いやりの心をもって親切にする二つの行為について比べる活動を通して、相手の状況や気持ちを自分のこととして考えることの大切さに気付く、進んで親切にしようとする態度を育てる。

(2) 展 開

□ 教師の言葉掛け □ 子供の反応 ◆ 重点評価項目 ☆ ICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
気付く (6)	<p>1 「親切」について自分自身の体験を振り返り、考えていきたい問題に気付く。</p> <p>自分自身は親切にしたと思った行動が、相手は不機嫌になったのは、どうしてでしょうか。</p> <p>・ 相手が助けを求めていなかったから。 ・ 相手はそっとしてほしいと思っていたから。</p>	<p>☆ 自分のした行動が相手に伝わらなかった場面を電子黒板に提示することで、自分の体験を振り返らせる。その際、「これまでに自分のした親切は、本当に親切だったか。」と発問することで、親切に対する問題意識を喚起する。【主】</p> <p>○ 教材を事前に読んだり、授業中に電子黒板で視聴したりすることで、登場人物の心情や背景を捉えやすくする。【主】</p> <p>○ 心配をして声を掛けたのに断られたはやとの気持ちを考えさせることで、「せっかく親切にしたのに、断られて悲しい」等の気持ちを自分との関わりで考えることができるようにする。</p>
見 つ め る (26)	<p>2 本時のめあてを立てる。</p> <p>困っている人に親切にするには、どんなことに気を付けたらよいだろうか。</p> <p>3 教材「心と心のあく手」を視聴し、「親切、思いやり」に関わる生き方について話し合う。</p> <p>(1) はやとの心情、心情の変化について話し合う。</p> <p>はやとは、重そうな荷物を苦しそうに持つおばあさんを見て、どんなことを考えているだろう。</p> <p>・ おばあさんを助けるか、お母さんとの約束を守るか。 ・ おばあさんの荷物を持つか、でも断られたらどうするか。 ・ おばあさんに声を掛けるか、他によい方法はないか。</p> <p>(2) おばあさんに声を掛けたはやとと、おばあさんの後ろを付いて歩いたはやとの行為の違いについて話し合う。</p> <p>どちらのはやとの行動がより親切ですか。</p> <p>〔声を掛けはやと〕</p> <p>・ おばあさんのことを心配した行動したから。 ・ 勇気がないと、できない行動から。</p> <p>〔後ろを歩いたはやと〕</p> <p>・ おばあさんのためになる行動だから。 ・ おばあさんのことを思いやり、優しい行動だから。</p> <p>【どちらも、分からない】</p> <p>・ どちらももおばあさんのことを考えているから。 ・ 自分のためではなく、相手を思いやる心があるから。</p>	<p>○ どちらのはやとの行動がより親切か、その理由や根拠をワークシートに記入させる。その後、名前カードを黒板に貼らせることで、自他の考えを明確にする。【対】</p> <p>○ 「学び合い」の際、似た考えの子供同士で理由や根拠を確かめた後、違う考えの子供同士で互いの考えを伝え合うようにすることで、多様な感じ方や考え方に気付くことができるようにする。【対・深】</p> <p>○ 「いつも、誰に対しても見守ることが親切だと言えるか。」と発問し、相手の状況や気持ちを考える大切さを押さえる。【深】</p>
深 め る (8)	<p>4 導入で提示した場面を再度提示し、自分ならどうするか考える。</p> <p>5 自分のめあてに基づき本時を振り返り、「親切、思いやり」に関わる自分の考えをまとめる。</p> <p>(1) 自分の考えをノートに書く。</p> <p>相手の気持ちを考え、自分のこととして行動することに気を付けていきたい。</p> <p>優しく接することだけでなく、状況に応じて見守ることも大切だ。</p>	<p>☆ 導入時の親切に対する道徳的価値観を想起させ、はやとの行動と比べることで、導入時と終末時の変容に気付かせる。【深】</p> <p>○ 自分のめあてを基に本時を振り返ることで、自分の成長や課題を自覚できるようにする。【主・深】</p> <p>◆ 「自分のこととして考える」、「相手の状況や気持ちを考える」など多面的・多角的な見方に考えが広がったり、深まったりしているか。【発言、ノートの記述】</p>
高 め る (5)	<p>(2) 全体で自分の考えを伝え合う。</p> <p>学習した考えを生活のどんなときに生かしたいですか。</p> <p>問題のやり直しをしている友達に関わるときに生かしたい。</p> <p>けがをした一年生に接するときに生かしたい。</p> <p>6 動画(CM「思いやり算」)を視聴する。</p>	<p>○ 「学習した考えを生活のどんなときに生かしたいか。」と発問することで、実践意欲や態度を高めることができるようにする。【深】</p>

第4学年「本当の親切とは」(B 親切, 思いやり)における授業構想シート

育成を目指す資質・能力

相手の状況や気持ちを自分のこととして考えることのできるよさや大切さに気づき、進んで親切にすることができる。

働かせたい「見方・考え方」

見方(～に着目して)

考え方(思考の枠組み・方法)

相手の状況や気持ちを考えて行動することに着目して、「親切, 思いやり」に関わる自分の生活経験を関係付けたり, 自分と友達の感じ方や考え方を比較・整理したりする。

「見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く「見方・考え方」



おばあさんに声を掛けたはやとの行動と、後ろを歩いたはやとの行動は、どちらがより親切でしょうか。同じ(違う)考えの友達同士で理由を伝え合ひましょう。

相手の状況や気持ちに着目して、「親切, 思いやり」に関わる自分の生活経験を関係付ける。



ぼくは、おばあさんに声を掛けたはやとが親切だと思います。だって、知らない人に声を掛けるのは勇気がないからです。

わたしは、後ろを歩いたはやとが親切だと思います。なぜなら、はやとはおばあさんのことを思いやり、温かく見守ったと思うからです。



相手の状況や気持ちに着目して、自分と友達の感じ方や考え方を比較・整理する。



ぼくは、どちらのはやとの行動も親切だと思います。なぜなら、どちらの行動も、はやとはおばあさんのことを考えてしているからです。でも、他の友達の考えも分かるな。



はやとの二つの行動の「同じところ」と「違うところ」は、何でしょうか。

相手の状況や気持ちに着目して、自分と友達の感じ方や考え方を比較・整理する。



「同じところ」は、どちらともおばあさんのことを考えて、はやとは行動しているところです。また、思いやりの心が行動として表れています。

「違うところ」は、おばあさんの気持ちを考えたり、おばあさんのためにどの行動がよいか想像したりしているところです。親切の広さや深さが違うと思います。



同じ場面に出会ったら、自分ならどう行動しますか。

相手の状況や気持ちに着目して、「親切, 思いやり」に関わる自分の生活経験を関係付ける。

ぼくなら、はやとと同じようにおばあさんの後ろを付いて歩くと思います。だって、その方がおばあさんのためになるからです。



いつ、どんなときも、誰に対しても見守ることが親切だと言えるのでしょうか。

言えません。相手の困っていることを想像したり、自分のこととして考えたりして行動することが親切だと思います。



振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- ・ 困っている人に親切にするには、相手の気持ちを考え、自分のこととして行動することが大切である。例えば、けがをしている友達を見掛けたら、大丈夫か気に掛け、大変そうだったらすぐに助けてあげたい。
- ・ 自分が困っているとき、すぐに「大丈夫ですか。」と声を掛けられて嬉しいときもあれば、静かにそっとしてほしいときもあるから、温かく見守ることも大切であることが分かった。
- ・ 友達が発表した「親切の広さや深さが違う」の考えに納得した。相手の気持ちを自分のこととして考え、進んで親切な行動をしていきたい。
- ・ 声を掛けることの難しさも感じたが、友達に対して思いやりの心をもって接していきたい。